

「学校臨床支援センター 紀要」の創刊に寄せて

福島大学人間発達文化学類附属

学校臨床支援センター長 宗形潤子

福島大学人間発達文化学類附属学校臨床支援センターは、1981年に発足した「教育学部附属教育実践総合センター」をその祖としてスタートしました。その後、2004年度10月の新生福島大学の改組を受け、2005年度には全学附属の「総合教育研究センター」となりました。そして、それらの業務内容を引継ぎ、2019年度に新たなスタートを切ったのが「学校支援部門」「学校相談部門」「現職研修部門」の3部門を有する人間発達文化学類附属学校臨床支援センターとなります。それぞれの部門の主な業務としては「附属学校園と大学との連携、附属校園同士の教育・研究に関する連携」「臨床心理・教育相談室の運営、教育臨床研修講座の企画運営、心理教育的支援のための研修会等の開催」「教職員研修講座の企画運営と学校や教師、教育委員会の支援」が挙げられます。今後もより一層のこれらの業務の遂行を目指し、その成果を社会貢献・地域貢献として還元していきたいと考えています。そして、本紀要がその成果公表の一つの場として、社会や地域に貢献していく機関誌としての機能を果たしていくことができればと考えます。

本紀要では、今後も、前身である「総合教育研究センター紀要」を引き継ぎ、本センターの3部門に関わる内容のみではなく、学校教育を始めとし、大学等の高等教育、キャリア教育、企業教育、社会教育、教職課程など幅広い「教育」に関する理論と実践に関する論文を掲載していきます。

本創刊号巻末に掲載いたしました編集・執筆要項をご覧の上、多くの方々にご投稿いただけますようどうぞよろしくお願いいたします。

2020年2月